

県産米全域で出荷

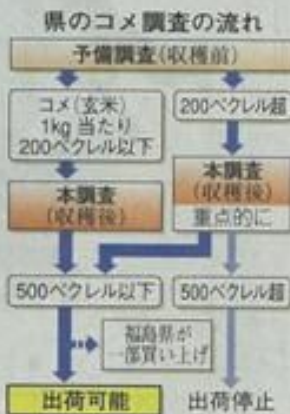
放射性物質 二本松も基準下回る

県は12日、今年作付けされた県内48市町村の一般米の本調査の結果、1174地点全ての検体で放射性物質が国の暫定基準値(1kg当たり500ベクレル)を下回ったと発表した。予備検査で暫定基準値と同じ500ベクレルのセシウムが検出された二本松市の旧小浜町の検体も本調査の結果、暫定基準値を下回り、警戒区域など避難区域を除く県内全域で出荷が可能になった。佐藤雄平知事は同日、安全宣言を出し、県は今後消費者に安全性をアピール、本県産米の販売促進に力を入れる。【2、3、25面に関連記事】

知事「安全宣言」



県産米の「安全宣言」をする佐藤知事
12日午後、県庁



県は12日、本調査で残った二本松市の検体34点、三春町の3点の結果を発表。二本松市の検体からは旧小浜町の8点、旧新殿村の1点からセシウムが検出されたが最大値は予備調査で基準値並みのセシウムが検出された旧小浜町の1検体か

本調査の全調査地点の検体で暫定基準値を下回ったことを受け、佐藤知事は同日、「(本県産米の)安全性が確認された。安全性を消費者にPRしていきたい」と述べた。

予備調査で二本松市の旧小浜町のコメから1kg当たり470ベクレルが検出された。ほかの地点は6・3・1・0ベクレルだった。三春町の3点からは検出されなかった。

県は、本年産米の予備調査で放射性セシウムが国の暫定基準値と同じ1kg当たり500ベクレルが検出された二本松市旧小浜町の水田のコメから、本調査でも1kg当

たり470ベクレルのセシウムが検出されたことから、この水田と同じ条件で栽培された隣接する水田を合わせて計9㌥のコメ約400kgの買い上げを決めた。隣接す

二本松 県が400kg買い上げ

検出分

えた地点で、作付けを制限していた。

り500ベクレルのセシウムが検出されたことを受け、県は同市全域を「重点調査区域」に指定。収穫後の本調査で調査地点を当初の38から288に増やし、検査態勢を強化していた。

コメをめぐるっては、政府が4月、東京電力福島第1原発事故を受け、警戒区域や計画的避難区域、緊急時避難準備区域の作付けを制限。このほかの区域でも、土壌中の放射性セシウム濃度が1kg当たり5千ベクレルを超

TPP早期参加が重要

シンガポール首相 玄葉外相に要請

【シンガポール共同】下 階での参加が重要だ。大枠

【5面に関連記事】

天気

13日

旧暦

9月17日

先勝

